

教科	理科	学年	1年	時間数	4 / 週
使用教科書  副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来へひろがるサイエンス1（啓林館）</li> <li>A カラーブック 理科資料（とうほう）</li> <li>B 理科の学習1 啓林館版（浜島書店）</li> <li>C 学習の達成 理科1年 啓林館版（新学社）</li> <li>D わたしたちの理科研究（栃小教研理科部会栃中教研理科部会）</li> </ul> <p>⑩ Bについて、自宅においての復習、定期試験前の学習に使用する。            Cについて、単元終了時に確認、定期試験前の学習に使用する。            →専用ファイルに綴じて保管する。            Dについて、理科の自由研究の参考にする。</p>				
<b>学習の目標</b>					
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>第1学年では、自然に親しむ中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだしたり、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想したりするといった問題解決の力を育成する。</p> <p>(1) 身近な物理現象        身近な物理現象についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。        ・身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。        ・身近な物理現象について、問題を見だし見通しを持って観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。</p> <p>(2) 身の回りの物質        身の回りの物質についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。        ・身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。        ・身の回りの物質について、問題を見だし見通しを持って観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。</p> <p>(3) いろいろな生物とその共通点        身近な生物についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。        ・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。        ・身近な生物についての観察実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。</p> <p>(4) 大地の成り立ちと変化        大地の成り立ちと変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。        ・大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。        ・大地の成り立ちと変化について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現すること。</p>					

